

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第13週)

(令和7年3月24日～令和7年3月30日)

令和7年4月3日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年					2024年 合計	2023年 合計
		10週	11週	12週	13週	合計		
定点報告	インフルエンザ	13.17	11.17	14.50	12.33	—	—	—
		79	67	87	74	1,144	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	9.33	7.83	5.33	3.67	—	—	—
		56	47	32	22	780	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	1.25	1.75	1.00	2.50	—	—	—
		5	7	4	10	36	309	425
	咽頭結膜熱	—	0.25	0.75	—	—	—	—
		0	1	3	0	27	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.00	1.50	2.25	1.50	—	—	—
		16	6	9	6	110	657	237
	感染性胃腸炎	10.75	4.75	2.25	7.75	—	—	—
		43	19	9	31	306	610	988
	水痘	0.25	—	0.25	—	—	—	—
		1	0	1	0	2	6	1
	手足口病	0.25	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	5	952	129
	伝染性紅斑	0.25	—	0.25	0.25	—	—	—
		1	0	1	1	8	0	8
	突発性発しん	0.75	0.50	0.50	0.50	—	—	—
		3	2	2	2	32	182	266
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	19	319	
流行性耳下腺炎	0.50	0.75	0.25	—	—	—	—	
	2	3	1	0	8	13	15	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	9	13	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	—	—	—	—	—	—	
	1	0	0	0	2	1	3	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	—	1.00	—	—	—	—	—	
	0	1	0	0	2	16	1	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	—	—	2.00	1.00	—	—	—	
	0	0	2	1	13	19	10	
新型コロナウイルス感染症(入院)	2.00	—	—	—	—	—	—	
	2	0	0	0	19	120	19	
全数報告	レジオネラ症	0	1	0	1	3	3	8

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ 及び RSウイルス感染症 の 流行 が見られます。
全数把握疾患	レジオネラ症 1名(90代) の報告がありました。

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 県(県内総数)ではインフルエンザB型の報告が増えています。 今シーズンで既に罹患した方でも再び感染することがあるため、引き続き体調管理に留意するとともに、手洗いや定期的な換気等、基本的な感染対策をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 インフルエンザと同様、体調管理や基本的な感染対策をお願いします。
感染性胃腸炎	県(県内総数)は前週と比較して減少しましたが、相双地域は増加しています。 感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの病原体による感染症です。1～3日程度の潜伏期間の後、嘔吐、下痢、発熱、腹痛等の症状がみられます。 送別会等、会食の機会が増える時期ですので、調理・食事前、トイレの後に、石けんと流水で十分に手を洗う等、感染予防を心がけましょう。
伝染性紅斑	県(県内総数)は前週より増加しており、相双地域は横ばいです。警報は続いています。 伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。通常、頬に発しんが出現する7～17日前に風邪様の症状がみられ、この時期にウイルスが最も多く排出されます。発しんの現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失した状態です。妊娠中に感染した場合、胎児水腫や流産を生じる場合があります。 予防には、手洗いや、マスク着用等の咳対策が有効です。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第13号